

「令和4年度 第4回阿見町総合計画審議会」議事概要

審議会等の名称	令和4年度第4回阿見町総合計画審議会
開催日時	令和5年1月26日（木）午後2時30分から午後4時00分
開催場所	阿見町役場 4階 全員協議会室
議 題	1. 町民ワークショップの結果概要について 2. 基本構想の策定について 3. 答申案について
公開・非公開の別	公開 *傍聴者1人
議事結果	<p><b>【出席者】</b> (委員) 平岡 博 委員、川畑 秀慈 委員、蓮井 誠一郎 委員、伊丹 一浩 委員、岩井 浩一 委員、吉田 美江子 委員、山口 道子 委員、國生 輝枝 委員、江田 麻裕子 委員、野呂 薫 委員、湯原 敏子 委員、渡邊 君江 委員、木村 美由紀 委員、戸澤 麻理 委員、本間 保 委員、齋藤 十郎 委員、藤田 加奈子 委員、吉田 幸二 委員、吉田 典子 委員、栗原 友香 委員</p> <p>(町) 千葉町長、佐藤町長公室長 政策企画課：糸賀課長、飯野係長、山口主任、高村主任</p> <p><b>【会議の概要】</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 事務局より町民ワークショップの結果報告が行われた。</li> <li>・ 事務局より総合計画の基本構想の策定に関する説明が行われ、その後、質疑応答が行われた。</li> <li>・ 会長より町長へ基本構想の答申が行われた。</li> </ul>
	<p>町民ワークショップの結果概要について<b>【質疑応答（抜粋）】</b></p> <p>会 長：参加者の内訳はどうなっているのか。</p> <p>事務局：1ページに参加者の年代別の構成を記載しています。第6次総合計画策定時に町民討議会に出席された方を対象として案内をお送りし、参加者は70代以上の方が半数以上を占めています。</p> <p>委 員：年代別をみると、20代・30代あたりが抜けているのかな、と感じる。仕事とかがあってなかなかこういったことに参加できないというところがあるのかなではないか。</p> <p>委 員：20代・30代がないということだが、男女の比率に関してはどうなっているか。</p>

事務局：男女の比率は女性が 57%、男性が 43%で半々くらいである。

委員：若い方の参加がなかったが、Web 会議等の検討はしたのか。

事務局：今回は、受付を E メールと受付フォームで募集したが、当日は対面式の形で実施した。今回の対象者は 10 年前の第 6 次総合計画の策定の時に町民討議会に参加いただいた方となり、皆さん等しく 10 年の年をとられているため、10 年前は 20 代だった方が 30 代になっている。ご指摘のとおり 20 代・30 代の方というのは、そもそも今回の対象に入らなかった。20 代・30 代の方にもご意見をいただくような形を今後も進めていきたいと考えている。今回のワークショップはワールドカフェ方式となり、テーブルを移動していく形での討議形式での実施であったため、Web でのご参加はなじまないような開催の形式であった。

委員：学生に参加してもらっていろいろ意見をもらった時には、到底我々の年代だと思いつかない意見が出てきたので、やはりまんべんなく、いろんな年代から意見を聞くのは大事なことと思った。

基本構想案のまちづくりの基本理念から施策の柱となる基本目標について【質疑応答なし】

人口の見通しと土地利用構想について【質疑応答（抜粋）】

委員：11 ページの霞ヶ浦湖岸親水ゾーンのところには霞ヶ浦の「ヶ」の大きいのと小さいがあるが、何か意味があるのか。

事務局：基本的には霞ヶ浦は大きい「ヶ」を使うが、つくば霞ヶ浦りんりんロードは小さい「ヶ」を使っている総称となるためここだけは小さい「ヶ」で表記している。固有名詞で決まっているものは、そのままの名称を使っている。

基本構想の全体について【質疑応答（抜粋）】

委員：第 6 次総合計画は基本目標が 4 つであったが、今回 7 つに変わっている。前回に組織とかは基本目標に合わせて考えるのかという意見があったかと思うが、それに対して進捗はあるのか。

事務局：基本目標については前回審議会でも 7 つでお示ししている。事務局で県内の市の基本目標の状況等も確認し、第 7 次総合計画で市政を目指すということもテーマであるので、市だとどれくらいの業務ボリュームがあるのかという点の一つがあります。それからこれまでご審議をいただきました町をとりまく社会情勢の変化とか DX への今後の対応、産業のこれからの発展とかを踏まえるとそれぞれに一定のボリュームがあるだろうと判断し、7 つに分けています。来年度基

本計画を策定する際には、その目標ごとに目標値等も考えていくことになるが、来年度の基本計画も踏まえた上で、7つくらいのボリュームをもたせる必要があるだろうと庁内の策定協議会の中でも判断し、最終的にこの7つになっている。

委員：まずは庁内調整結果を含めて7つがいいだろうとなって、実行についてはそれに沿ってこれから考えていくということか。

事務局：そういうことです。

会長：内容とはずれているが、5万人というのが一つの目標になるかと思う。5万人の数は国勢調査の時になるのか。

事務局：市に該当するかしないかの判断基準としては、国勢調査の数値が基準となりますので、今度の令和7年の国勢調査の時に5万人を超えているかどうか第一の判断基準となる。結果は翌年の令和8年に確定値がでますので、令和8年の確定値をもって施行できるということであれば令和9年度あたりが施行の期日になるのかなと判断している。基本構想における人口の見通しでは9ページに人口見通しということで5万から5万1千人ということで表記しているが、これについては2033年、10年後の人口の見通しが5万人から5万1千人という推計をしている。

委員：市を目指すということだったが、なぜかというのを教えていただきたい。町民にとって市になることになるメリットがあるのか。阿見町は町としては規模が大きいと聞いたが、市になったらそんなことはない。市になることのメリットは何か教えていただきたい。

事務局：例えば、町村だといろんな権限がない。県がやってくれている。これは行政権限の区分の話になるが、市になると例えば福祉部門の行政が市の方に県からおりてくる。県まで行かなくてよくなるので、町民の皆様へのサービスがより身近になるということで十分なサービスが行き届くようになる。市になるためのメリットはあると考えている。

委員：デメリットはないのか。

事務局：デメリットについては、市になることで表記が変わるので経費がかかることはある。デメリットについてもいろんなところで議論されているが、今後皆さんとともに検討していくことになると思う。

委員：税金の負担が増えるとかはないか。

事務局：具体的にはない。名前が変わるといろんな表記を直すための経費がかかってくるというのはあると思う。稲敷郡阿見町という稲敷郡が取れますので、例えば阿見市になれば皆さんも住所を書くときに稲敷郡を除いて書けるということがある。

答申案について【質疑応答（抜粋）】

委員：事前に気づいていればよかったが、2のところ「貴重な歴史遺産である予科練」とあるが、「予科練をはじめとする貴重な歴史遺産」のほうが良いのではないか。先ほどのワークショップ結果をみると阿彌神社、鎌倉街道など歴史があるが、この文言だとだと予科練だけを指しているようになる。その前の「霞ヶ浦をはじめとする～」と同じような形にすれば良いのではないか。

会長：自然環境と歴史遺産で、大きなくくりでまとめたらという提案ですね。訂正はできるか？

事務局：修正は可能ですので、ご意見をよろしくお願いします。

会長：それでは修正ということをお願いしたと思う。

委員：「誰もが多様性を認め合い」というところの「子どもから高齢者」ですが、こだわる訳ではないが、子どもというなら大人までにするとか、どうか。それから私の認識不足かもしれないがSDGsというのは共通ですか。ここは日本語に変えたらどうか。日本語にこだわるわけではないが持続可能とかあるのではと思う。

委員：SDGsという単語自体は民間の調査だと8割くらいの方が言葉だけは知っている。ただ一方で、具体的に中身は説明できるかとなると、認知率が下がるという側面もある。丁寧に書くのなら持続可能な開発目標(SDGs)という書きぶりになるが、文章として長くなってしまうのかもしれない。SDGsという言葉自体はかなりキーワードとしては定着している。少ないかもしれないがSDGsという言葉が耳慣れないという方もいる。一方で「誰一人取り残さない」という観点では、耳慣れない方にも理解されるような表現は可能な範囲で対応すればいいのではないかと思う。多少冗長になるが「持続可能な開発目標(SDGs)」が、より丁寧になるのかなと感じた。

会長：その修正でいかがか。

委員：基本構想も含めて最初にSDGsとは何かを表記してしまえば、その後の文言はすべてSDGsで良いのではないか。

会長：答申では、はじめて出てくるので。

委員：答申はそれでよろしいかと。

事務局：1点目の「子どもから高齢者」のところで「高齢者」ではなくて「大人」というようなご意見があったが、そちらはどうするか。

会長：「子ども」は、最近は漢字じゃなくてひらがなを使うことが多くはなってきた。高齢者と大人の使い分けだが、どちらの方がいいかという二者択一になってしまうかと思うが、いかがか。

委員：「子どもから高齢者まで」で意図しているのは、年齢群を分けて示唆しているのではなく、中央値のところから弱い状態だったり、体

力的だったりという意味を表していると思う。子どもから高齢者までというところを対象として表現しているところなので、子どもから大人という年齢群で言っている。成人か成人じゃないかと言っているところを指すことになると思うが、ここで言おうとしているのは弱者である部分ということもカバーしますという意味での表現で「健康で心豊かに」なので、このままでもいいのかなど。意図するところとしてはありかなと思う。

委員：大人として表記した場合、漠然としすぎているので全編通して弱者、高齢者、介護、医療というそんな風なくくりがたくさん出てきているので、ここは高齢者の方がいい言葉だと思う。

委員：中間の年齢が抜けているのではということであれば、「生涯にわたって」とかはどうか。

会長：具体的な方がよいかなと思う。

\*指摘事項を踏まえ答申案を修正し、答申書とすることで異議なし。

総合計画審議会岩井会長から、町長へ基本構想の答申を行った。